

地震による施設の被害を最小限に抑えるため、浄水場や配水池の耐震化を進めるとともに、4つの基幹配水池（藻岩、平岸、清田、西部）からそれぞれの配水区域末端までをつなぐ基幹となる配水幹線を切れ目なく耐震化します。

また、災害時における重要施設である医療機関や指定避難所（基幹）³⁹ へ向かう配水管の耐震化を進めます。

効果

- ・地震などの災害時における断水被害が最小限に抑えられます
- ・病院など災害時に重要な施設へ水道水を安定的にお届けできます

取組

①浄水場の耐震化

- 令和3(2021)年度までに西野浄水場の耐震化を完了します。
- 定山溪浄水場の耐震化の検討を進めます。

②配水池の耐震化

- 令和5(2023)年度までに硬石山配水池の耐震化を完了します。
- 令和6(2024)年度までに西部配水池と南沢第2ポンプ場・配水池の耐震化を完了します。

③配水幹線の連続耐震化

- 清田配水池から末端までの幹線の連続耐震化を継続的に進めます（令和8(2026)年度完了予定）。そのうち、里塚配水池及び有明配水池に向かう流入管の耐震化を令和6(2024)年度までに完了します。
- 平岸配水池から末端までの幹線の連続耐震化を継続的に進めます。（令和12(2030)年度完了予定）
- 西部配水池から末端までの幹線の連続耐震化を継続的に進めます。（令和12(2030)年度完了予定）

④災害時重要施設へ向かう配水管の耐震化

- 医療機関へ向かう配水管の耐震化を進め、令和6(2024)年度までに供給ルートの耐震化が完了する医療機関を合計で89か所にします。
[対象医療機関：150か所 ※令和2(2020)年2月現在]
- 指定避難所（基幹）へ向かう配水管の耐震化を進め、令和6(2024)年度までに供給ルートの耐震化が完了する指定避難所（基幹）を合計で45か所にします。
[指定避難所（基幹）：311か所 ※令和2(2020)年2月現在]

指標

指標名	H25(2013)年度末実績	H30(2018)年度末実績	R6(2024)年度末目標
浄水場の耐震化率	18.6%	19.2%	21.1%
配水池の耐震化率	71.0%	84.5%	84.8%
配水幹線の耐震化率	38.5%	40.8%	43.0%
供給ルートの耐震化が完了した医療機関の数	30か所	60か所	89か所
供給ルートの耐震化が完了した指定避難所（基幹）の数	0か所	22か所	45か所

³⁹【指定避難所（基幹）】長期にわたり避難する場合に、身体や生命を守る場所のこと。札幌市地域防災計画により学校などが指定されている。

年次計画	実績					計画				
	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
年次計画	①浄水場の耐震化									
	西野浄水場（取水施設、浄水場、配水池等）					→				
	宮町浄水場（取水施設、排水施設）					→				
	定山溪浄水場（取水施設、浄水場、配水池等）					→				
	②配水池の耐震化									
	平岸配水池					→				
	宮の森高台配水池					→				
						→ 硬石山配水池				
						→ 西部配水池				
						→ 南沢第2ポンプ場・配水池				
	③配水幹線の連続耐震化									
	藻岩配水池系					→				
						→ 清田配水池系				
					→ 平岸配水池系					
					→ 西部配水池系					
ビジョン後半5年間の予定事業費(2020~2024年度)						245 億円				

【図表31】配水幹線連続耐震化整備路線図

